

## 展覧会のご案内

そめのつかさ

## 日本の色 染司よしおか 吉岡更紗の仕事

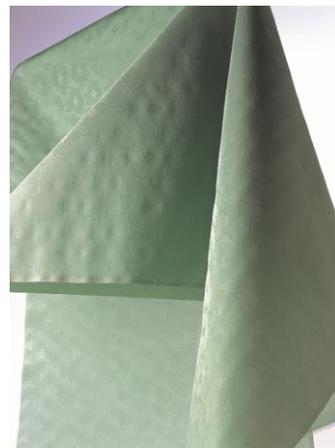
2026年2月1日(日)まで開催中

- 【会場】 三鷹市美術ギャラリー  
 【開館時間】 午前10時～午後8時(入館は午後7時30分まで)  
 【休館日】 月曜日(1月12日は開館)、1月13日(火)、年末年始(12月30日～1月4日)  
 【観覧料】 一般800円 / 65歳以上、学生(大・高)500円 / 中学生以下無料  
 障害者手帳等をお持ちの方と付添の方1名は無料  
 【主催】 三鷹市美術ギャラリー・(公財)三鷹市スポーツと文化財団  
 【特別協力】 染司よしおか 【企画協力】 青幻舎プロモーション

「染司(そめのつかさ)よしおか」は江戸時代から200年以上続く京都の染色工房です。日本に古くから伝わる植物染めの技法を用い、草木や花から美しい色を引き出し、麻、絹、木綿、和紙といった自然素材を染めることを生業としてきました。また、古社寺との関わりも深く、東大寺修二会(しゅにえ)に用いられる造花の椿を作るための和紙の染色を担うなど、伝統行事を支えてきました。

日本の染色の歴史は古く、植物を用いた染色は縄文時代までさかのぼります。奈良時代には大陸から本格的な技術が伝わり、より洗練された染色文化が育まれました。しかし、明治時代になると西洋から伝わった化学染料が急速に普及し、植物染めは衰退していきます。時代の変遷のなかで伝統的な技術が失われつつあることを危惧した五代目・吉岡幸雄は、植物染めを復活させ、「日本の伝統色」を現代によみがえらせました。

本展では、薬師寺の伎楽(ぎがく)装束など古社寺の伝統行事にかかわる復元作品や『源氏物語』の衣裳の再現作品などを通して、「染司よしおか」の仕事をたどります。そして、その歩みを引継ぎ、植物染めによる色彩の美しさを探求しながら染色の新たな可能性を切り拓く六代目・吉岡更紗の取組みをご紹介します。

『源氏物語』「初音」衣配り  
末摘花の衣裳再現

## 企画展示 「三鷹綺譚」 最後の人一師・太宰治

2026年2月14日(土)から

5月17日(日)まで

観覧無料

三鷹の此の小さな家



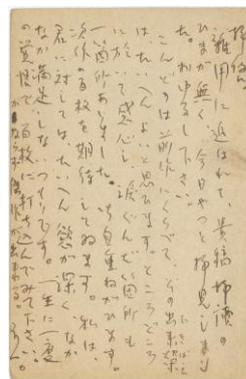
太宰治の自宅(三鷹町下連雀113)には、日々、弟子たちが訪問し、書齋兼応接間として使用していた六畳間では、文芸や美術についての談義が交わされていたといわれています。弟子の多くは学生でしたが、小山清や田中英光のように勤めながら師事し、文学を志す若者もいました。特に、小山清は太宰治の創作活動において極めて重要な役割を果たした弟子で、小山清が師と仰いだのは、太宰治ただ一人でした。

本展では、太宰治と小山清の歩みと、師の文学を後世に残すために注力した小山の活動、そして、太宰治から小山清へ、小山清から弟子たちへと脈々と受け継がれる文学の系譜について紹介します。

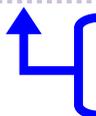
観覧時間: 午前10時～午後6時

休館日: 2月16、24、25日 協力: 青森県近代文学館

展示についての問合せ 太宰治文学サロン 0422-26-9150

太宰治 小山清宛葉書  
昭和16年6月30日

開催日	催し物名・観覧時間	入場方法	主催者(問い合わせ先)
2月 18(水)～ 22(日)	国分寺フォトクラブ2026作品展 観覧時間: 11:00～17:00	無料	国分寺フォトクラブ 090(9835)0446 杉山
17(火)～ 19(木)	菓立ち会「心彩」作品展 ※入館は19:30まで 観覧時間: 10:00～20:00(初日は13:00から、最終日は17:00まで)	無料	社会福祉法人菓立ち会 0422(34)2761 水野



- この催し物案内は、2025年12月12日にとりまとめたものです。
- 内容、期間、時間、入場方法等は変更になる場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- 各催し物の詳細については、主催者までお問い合わせください。